

目 次

P.1 何かいいことが起こり  
そうな-スリランカの旅-  
P.2-3 所沢図書館まつり  
P.4-5 所沢 はじめて物語  
P.6 本館のエレベーターが  
新しくなりました  
編集後記

# 復刊 いざみ



## 何かいいことが起こりそうな —スリランカの旅—

永窪綾子

二〇〇七年に「らくだ出版」より出版された詩集『何かいいことが起こりそうな』をスリランカ国の高僧ソーマシリ先生がシンハラ語（スリランカ語）に翻訳して下さり、対訳詩集として出版された。子どものころ、地理の勉強でセイロン（スリランカ）は紅茶の産地で、亜熱帯の島国だと習ったくらいで、私にとっては関係のない国だと思っていた。ところが、詩集出版という思いがけない出来事で、急に身近な国になった。

翻訳者のソーマシリ先生はスリランカのケラニア大学卒業後、大正大学に留学、さらに筑波大学でも学ばれ、日本ペンクラブにも所属されて『はだしのゲン』や日本昔話などを翻訳され、親日家として知られている。

折りしも、先生がスリランカ国で僧正にご昇格され、就任式と祝賀会が盛大に挙行されたとき、私も式典に参列したが、その際、この翻訳詩集も披露された。

スリランカ国はインド洋に浮かぶ小さな島国だが、アジアとヨーロッパを結ぶ海上交通の中継地と

なり、歴史の中でイギリスなどの植民地支配を受けたたり、また多民族、多宗教の国である。そのため民族紛争などしばしば内戦が起こった激動の歴史を持っている。けれど、国民は穏やかで、街角でお互いに手を合わせて「アーユボーン」と笑顔で挨拶する。

### 笑顔

インド洋からふく  
風にふかれて  
キラキラ輝く  
黒い 大きな目  
白い歯をみせて  
咲く 子どもたち

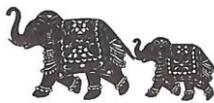
旅人も

おもわず ほほえみ返す  
国境も 人種も 超えて  
パチリン と

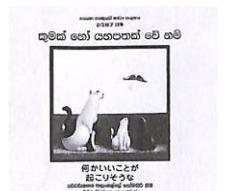
心と心が はじめ  
笑顔の糸が つながった

インド洋にうかぶ  
小さな 島国  
スリランカの街角で

『てのひら詩集』より



切り紙絵：永窪綾子



スリランカ・シンハラ語に  
翻訳された詩集の表紙

昨年の四月に起こったコロナ禍でのテロ事件では、日本人も犠牲になり、ニュースに接して驚きと同時に心が痛んだ。あれから一年近くが過ぎ、今は落ち着いているとの話を聞き、安堵している。

「一期一会」は、私の好きな言葉の一つ。人と人との出会い、国境や人種を越えて、相手を大切に思いやることで新しい世界が広がる。

今年の世界の祭典オリンピックの年である。世界の人たちの来日で賑わうだろう。出会いや交流は未知の世界を知るいい機会でもある。たくさんの人々に、たくさんのかいこと、起これば、いいなど願っている。

ながくほ  
あやこ  
永窪 綾子



一九四三年、兵庫県養父市生まれ。少年詩、童話、絵本を執筆。日本児童文学者協会会員、東北アジアの会会員。

詩集『何かいいことが起こりそうな』（らくだ出版）『みどりの風につつまれて』（ユーフォーブックス）『はるかな大空のむこうから—モンゴルの旅—』（同）他多数出版。

# 所沢図書館まつり

ついに20回突破！

新しい時代の図書館まつり

令和元年度の所沢図書館まつりのテーマは、「ついに20回突破！新しい時代の図書館まつり」です。記念すべき20回目を迎えた図書館の Mascot、トベアといっしよにお伝えします。

トコロんも来てくれたよ！



ぼく、トベア！  
今回の図書館まつりも  
楽しいイベントが  
もりだくさんだったよ！



**本館** 11月16日(土)・17日(日)開催！

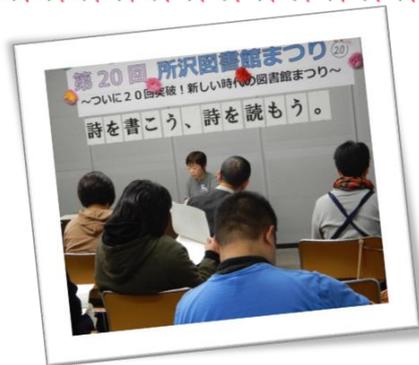
大人が大活躍！

## 『ビブリオバトル』

今回のビブリオバトルは「R40 大人のビブリオバトルin埼玉」の予選会も兼ねて開催されました。優勝者は、越谷での県大会に出場しました。



県大会での結果は準優勝！  
おめでとうございます！



素敵な作品が集まりました！

## 『詩を書こう、詩を読もう。』

講師は須永紀子先生です。みなさんから募集した詩について、先生からの講評もありました。今回は8作もの応募がありました。

みなさん、真剣に聞き入っていたのが印象的だったなあ。



一味違う！

## 『大人のための朗読会』

朗読サークル「わ」のみなさんによる朗読会です。ゲストとして、演出家の小林裕さんにも出演していただきました。



今回は、1作品を複数人で朗読するという新しい試みがあったよ。



まつりのラストを飾る♪

## 『マリンバミニコンサート』

出演はアコースティックマリンバ Jr. & 市川みどりさんです。綺麗な音色が図書館に響き渡りました。



そのほかにも、おはなし会、こうさく会や図書館探検など、たくさんのイベントがあったよ。所沢市のゆかりの作家の本の展示も行ったんだ。

各分館・松井小学校図書館でも、それぞれ多彩なイベントを開催しました！

所沢分館『親子おはなし会スペシャル』



おはなしだけでなく、ヨガなど体を動かす場面もあり、普段とは一味違う、特別なおはなし会が開催されました。



親子で楽しめるプログラムだったね！

椿峰分館『親子おはなし会スペシャル 親子ヨガ』

吾妻分館『紙芝居スペシャル』



富岡分館『貸出・返却体験』



図書館のお仕事を少しだけ体験です。



狭山ヶ丘分館

『歌人三ヶ島葎子～逆境における生き方～』



所沢市ゆかりの歌人、三ヶ島葎子についての講演を行いました。

柳瀬分館『どんぐりでトトロをつくろう！』



各図書館で、さまざまなワークショップを行いました。どの作品も素敵です。

新所沢分館

『工作会～ねんどでかわいいストラップを作ろう！～』



松井小学校図書館

『あなたも三ツ星シェフ

～紙でつくるおいしいレストラン～』



みんなじょうずだね！

市民の皆様と、図書館が手を取り合って作りあげる、年に一度の所沢図書館まつり。第1回目は、平成12年に、市制施行50周年記念および、子ども読書年を記念して開催されました。

そんな図書館まつりも、今年で20回目を迎えました。それも、市民の皆様にご協力いただいたおかげです。本当にありがとうございます。

所沢図書館では、今後も、皆様を楽しめる図書館まつりを開催していきます。

# 所沢・はじめて物語

## さつまいもの始作地



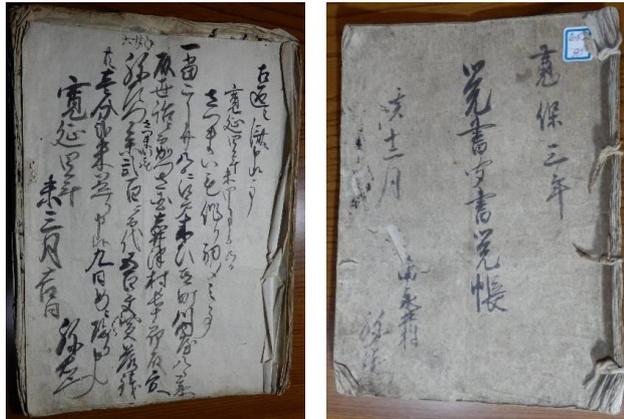
さつまいも始作地之碑  
(南永井)

幕末期の流行り言葉に「九里よりうまい十三里」という言葉があります。

江戸時代、焼き芋屋が、栗みたにおいしいが「栗(九里)」には少し及びません、という意味で「八里」または、「八里半」という看板を掲げていたそうです。それを江戸のある焼き芋屋が、「十三里」と名付けたところが、「九里(栗)より(十四里)うまい十三里」という、粋な洒落がうけて、さつまいもを「十三里」というようになったそうです。

「川越」は当時から、このおいしい「十三里」の産地の一つとして知られていました。今では「川越いも」でおなじみになってい

ますが、埼玉地方において、最初にさつまいもの試作に成功したのは、入間郡南永井村(現在の所沢市南永井)の名主、吉田弥右衛門でした。



弥右衛門覚書

吉田家に寛保3年(1743)から書き始めた「弥右衛門覚書」(市指定文化財/吉田家所蔵)という記録が残されています。それによれば、寛延4年(宝暦元年、17

5)2月、名主であった弥右衛門は、江戸木挽町の川内屋八郎兵衛の世話で、息子の弥左衛門を上総国志井津村(現在の千葉県市原市)の長十郎の所に遣わし、さつまいも二百を五百文で買い受け、お礼や小遣いで一分二朱かかった。そして、九日目に家へ帰ってきた、とあります。

弥右衛門がさつまいもについて自ら「作り初め申し候」と記したのは、4年が経過した宝暦4年のことでした。親子二代の苦労によって試作に成功し、さつまいも栽培は近隣に広まりました。

これ以降、川越藩領とその周辺の村々では、さつまいもの生産が高まっていきます。この地域は、ちようど武蔵野台地上にあり、関東ローム層が厚く堆積している地で、水はけがよく、痩せた土地でしたが、さつまいもの生育には適していました。

川越と江戸との間は、新河岸川舟運で結ばれており、芋を俵に詰めて、近くの河岸場の船問屋に運ぶことで、大量に江戸まで送ることが可能でした。こうして、集散地である城下町・川越の名をとって「川越いも」と呼ばれるように

なり、現在に至っています。



いも神社(上) / なでいも(下)

また、中富にある神明社には、この吉田弥右衛門の功績を称え、関東で初めてさつまいもを試作した青木昆陽(甘藷先生)とともに、「甘藷乃神(いものかみ)」として祀った「いも神社」があります。社前には、さつまいもを抱いた狛犬、神様の力をいただける「なでいも」が祀ってあります。

### 【参考文献】

- 『所沢市史上』所沢市史編さん委員会／編 所沢市
- 『所沢市史 近世史料Ⅱ』所沢市史編纂委員会／編 所沢市
- 『ところざわ歴史物語』所沢市教育委員会／編 所沢市教育委員会
- 『川越とサツマイモ』川越市立博物館編／川越市立博物館

## 小手指ヶ原古戦場

所沢市北野には、小手指ヶ原古戦場という史跡があります。

昔は、一面の原野であり、小手指ヶ原と呼ばれて、北は入曽(狭山市)から藤沢(入間市)辺りまでが、その範囲に含まれていたようです。

元弘3年(1333)、新田義貞が鎌倉幕府打倒の兵を挙げました。新田軍は、鎌倉街道を南下し、幕府軍とはじめて激突したのが、この小手指ヶ原です。鎌倉幕府が、倒れるさきがけとなった合戦でした。



小手指原古戦場碑

新田義貞は、上野国新田庄(群馬県太田市)を本拠地とする源氏の一族で、幕府内では中流の御家人でした。義貞は、はじめ、後醍醐天皇の呼びかけに応じて蜂起した、西国の武士を鎮圧する軍に加わっていました。ところが、西上の途中で故郷上野に取って返し、元弘

3年に生品明神(群馬県太田市)で、倒幕の兵を挙げたのでした。



新田義貞進軍図

(『ところざわ歴史物語』より)

5月8日に新田庄を出た義貞は、利根川を渡り、武蔵国に入り児玉・菅谷と鎌倉街道を一路下つて、11日には小手指ヶ原に至りました。初め150騎ほどであった一行は、足利氏らの勢力も加わったこともあって膨れ上がり、最後には、20万騎にも及んだといわれています。

緒戦となった小手指ヶ原の合戦は、30余回も打ち合って勝敗がつかず、新田軍は入間川(狭山市)に、幕府軍は久米川(東村山市)にそれぞれ退いて陣を取りました。

翌12日朝、新田軍は再び攻撃を開始し、久米川に押し寄せ、幕府軍はさらに分倍河原(府中市)にま

で退きました。

15日、幕府軍に新手10万が加わったので、形勢が不利となり、新田軍は、堀兼(狭山市)まで後退し、陣容を立て直しました。

そして、16日早朝、新たな援軍を得た新田軍は、分倍河原の幕府軍を急襲し、これを打ち破ったのでした。

勢いに乗った新田軍は、一気に鎌倉に迫り、18日には村岡(神奈川県藤沢市)、21日には極楽寺坂(鎌倉市)に達しました。

そして、元弘3年5月22日、得宗(北条高時)らは、鎌倉東勝寺で自害し、ここに鎌倉幕府は滅びたのでした。

歴史的に、小手指ヶ原が戦場となった有名な合戦には、この新田義貞の鎌倉攻めをはじめとして、建武2年(1335)の中先代の乱、そして正平7年(1352)の武蔵野合戦等があります。



白旗塚土盛修復記念碑

この地域は、義貞をはじめ新田

一族の活躍の舞台となったため、市内には、同氏にまつわる伝承が多く残されています。

小手指原古戦場碑(北野2丁目)近くにある白旗塚は、義貞が源氏の白旗を立てた場所といい、その北にある誓詞橋は倒幕の誓詞を取った場所、久米の長久寺近くの柳瀬川にかかる勢揃橋は、新田軍が勢揃いした場所と伝えられています。

また、有楽町にある「薬王寺」には、本尊の薬師如来が、新田一族の崇りとされた鼠の厄を払う仏として「鼠薬師」と呼ばれるようになったという話も残っています。  
※得宗：北条氏の嫡流のこと。

### 【参考文献】

- 『所沢市史 下』所沢市史編さん委員会／編 所沢市
- 『所沢市史 文化財・植物』所沢市史編さん委員会／編 所沢市
- 『ところざわ歴史物語』所沢市教育委員会／編 所沢市教育委員会
- 『ところざわふるさと散歩』所沢市民俗研究会／編 所沢市立中央公民館

# 本館のエレベーターが 新しくなりました

本館では、エレベーターの改修  
工事を行いました。みなさんは、  
もう乗られましたか？

エレベーターを新しくする工事  
はどのようにするのか、疑問に思っ  
た人もいるのではないでしょう  
か？そこで、簡単にご紹介します。

皆さんが乗るエレベーターのか  
ごは、そのままでは大きくて、出  
入口を壊さないと交換できません。  
そこで、かごを分解してから運び  
出します。



クレーン車



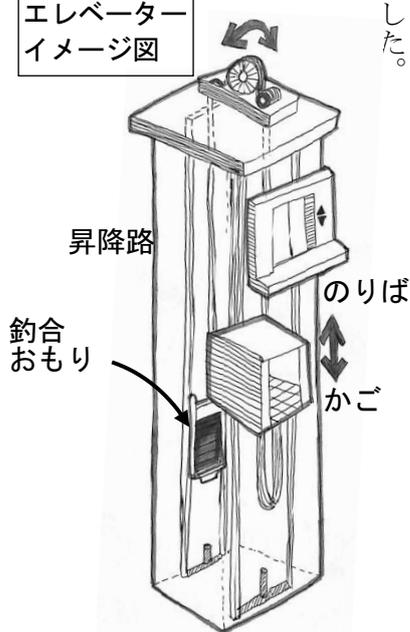
かご分解中



モーター

かごを巻き上げるモーターなど  
の大きな部品は、屋上からクレー  
ン車を利用して運び出しました。

エレベーター  
イメージ図

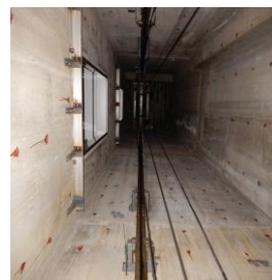


昇降路

のりば  
かご

釣合  
おもり

そして、かごが上がったり下がっ  
たりする昇降路だけとなりました。



昇降路

(下から上を覗いたところ)

続いて、新しいエレベーターの  
かごも、昇降路の中で部品から組  
み立てました。安全検査も無事に  
合格し、皆さんにご利用してい  
ただけるようになりました。

工事期間中は、騒音や振動が激  
しく、機材の運び出しなどもあつ  
たことから、ご来館の皆様安全  
を考え、やむなく休館とさせてい  
ただきました。ご不便をおかけし、  
申し訳ありませんでした。

どうぞ、これからも新しくなっ  
たエレベーターをご利用ください。

完成



エレベーター工事期間  
中は、臨時窓口を開設  
し、本の貸出、返却でご  
利用いただきました。



## 編集後記

暖冬と言われるこの冬は、確か  
に短かった。桜の開花も例年にな  
く早いと聞く。雪不足の影響が心  
配である。平成から令和に時代が  
変わった今年度は、様々なことが  
あった。暖かくなってきた気候に、  
新たな出会いをもたらす春がそこ  
まで来ていると感じる。(M)

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906